

令和5年度幼稚園学校評価（鳶巣幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育目標の達成に向けて年度当初の学級経営案、毎月の指導計画を作成し、毎学期定期的に評価を行い、スムーズな学級経営に努めた。 ・各学級に1名補助教諭が付いたことで、きめ細やかな保育を行うことができた。	4	4	・園児の実態について、年度当初に職員で共通理解をし、教育目標の達成に向けて保育を進めていく。 ・指導計画の反省を「10の姿」に照らして、丁寧に行う。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・小規模園の特長をいかし、職員全員が児童の基本情報や性格、特性を理解している。それらを深く共有することで深い幼児理解を行うことができた。 ・園内研や記録シートで日々の保育を振り返り、幼児の発達や課題を共通理解したうえで保育を行った。また、「語ろう会」を定期的実践することで、共通理解を図りながら幼児理解を深めていくことができた。	4	4	・子どもを語る会などで職員で情報共有したり、担任と補助教諭が記録シート等で記録をとり合ったりして、多面的に理解することが大切である。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・補助教諭の配置があり、配慮が必要な幼児に丁寧に対応することができた。 ・他のクラス担任や預かり保育の職員にも同じ姿勢で子どもと関わってもらえるよう共通理解を図った。	4	4	・就学に向けて計画的に支援・指導をしていけるように園児の実態や指導方針など職員で話し合い、今後も共通理解をもとに進めていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・研修会に参加し、人権感覚を磨くことができた。他の職員への報告を行い、幼児も人権意識を高めていけるよう安心できる関係づくりに努めた。 ・言葉遣いや友達との関わりにおいてお互いに気持ちよく生活していけるように援助した。良くない言動については、その場で指導するようになった。	4	4	・今後も研修会に積極的に参加し、職員の人権意識を高め、保育に活かすことで園児の人権意識の芽生えを培っていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事ごとに見直し検討を丁寧に行い、幼児の発達を促す場となるよう努めた。合わせて次年度の行事の在り方についても検討した。 ・異年齢でのかかわりを大切に、共に育ていけるように合同での活動をしていくようにした。	4	4	・来年度は園児数が減るため従来通りではなく、保護者や地域を巻き込んだ行事の内容を考えていく。 ・保育と行事の関連性を重視しながら、計画的に行事を実施する。行事後は次年度に繋がるような反省を行う。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・例年より多くの交流の機会を持つことができ、校区内の小学校を知り、年長児にとっては特に就学への期待に繋がった。 ・川跡幼稚園とも多くの交流ができ、幼児にとっても良い刺激となった。	4	4	・単発的な取組みではなく、継続的な取組みとしていけるように小学校とさらに連携を図る。 ・交流後、課題や成果等を検証し、次の活動に活かしていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・コロナ前と同じように未就園児教室を実施できてよかった。 ・プログや園だより等、保護者への丁寧な情報発信に努めた。 ・夏祭りや秋祭りなど地域の行事に参加することで、地域との連携がとりやすくなったと感じた。	4	4	・未就園の該当児が減っており、未就園教室の在り方を検討していく必要があるが、地域とのつながりは大切にしていきたい。 ・今後も園児等の実態に応じて、できるだけ地域の行事にも参加していきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・多くの研修会に参加することができ、良い刺激となった。 ・園内の「子どもを語ろう会」に参加することで、自身の幼児への関わり方を振り返ることができた。 ・学期末の研究のまとめや指導員を招いた園内研等を通して、職員間で振り返りを行いながら保育を進めていくことができた。	4	4	・園内研修会で指導を受けたことや職員で話し合ったことを来年度の研究に活かしていく。 ・保育や指導、園児の実態を多面的に捉え、今後も保育の質の向上に努めたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・職員同士は、連携を取りながら園務を担当し協力して遂行できた。 ・起床をもとに話し合い、全職員で協力し合い、計画的に取り組むことができた。 ・職員会議で話し合った内容を補助教諭にも伝え、共通理解を図るようになった。	4	4	・効率化が図れる園務は見直したり、役割分担したりするなどして効率よく遂行できるようにする。 ・職員数の減少も考えられるので、従来の在り方にとらわれず、統合・廃止・縮小するものなど工夫・協力して園務を進める。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・今年度は「不審者対応訓練」を行い、危機管理の意識を高め、対応について共通理解することができた。 ・小さな怪我ではあるが、同じ園児が何度も同じようなけがをしたり、大きなけがに繋がりがねない場面もあり、その都度原因を確認し、職員間で声を掛け合い安全に過ごせるように努めた。	4	4	・さまざまな訓練を通して園児の安全を守るように日頃から職員間で声を掛け合い、適切な対応ができるように努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・安全点検を定期的に行い、雨漏りや異常を発見した場合は、教育施設課や業者に連絡し、迅速な対応を心がけた。 ・鳶巣幼稚園奨学会や鳶巣地区青少年育成協議会のご協力で、看板の整備等することができた。	4	4	・今後施設面で修繕が必要な箇所が増える予想されるので、定期的な点検を丁寧に行い、職員間で情報共有していく。 ・病気や怪我への対応について、職員で確認して適切な対応ができるようにしていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する